エンジニアパーク　Engineer Ring Park

下出　育生　建設部門（道路）

勤務先：北海道函館土木現業所

昭和 54 年に北海道に採用されて以来 30 年という区切りの年に初の勤務地である函館に参りました。ちょうどこの函館も開港 150 年という節目に当たりなんの関係も無いのですが勝手に因縁付けております。(笑)この函館はこれまで仕事で立ち寄ることはあったのですが、実際住んで市内をそぞろ歩きすると有名な西部地区のみならず路地裏や家屋、庭などの街並みに道内他都市には無い風情が感じられ、やはりこの地特有の歴史や風土が造り上げたものなのかなぁと興味深くそして楽しく日々生活しております。

私は入庁以来ほとんど道路系の仕事に携わってきたためこの分野の技術士資格を取得したのですが、現在の職務は道路、河川・砂防・急傾斜、漁港、住宅など多岐にわたる公共施設が対象となっております。当然技術士と言うのは専門的な分野のエキスパートである訳なのですが、行政分野では幅広くバランスのとれた視点からの問題意識とその解決策が求められます。このことについては技術士の勉強課程において心がけた起承転結の考え方が功を奏しているのではないかと思っています。話は変わりますが、こちらで建設会社やコンサルタントの経営者の方とお話をすると、昨今の事業量の減少によって困ることの一つに技術者や技能労働者の人材問題があります。一人前に育てるには時間と費用がかかるわけであり、受注量の減少や利益率の低下状況のもとでは将来に向けた投資余力が無く、したがって技術の伝承も難しいものとなるなど建設業界を取り巻く情勢は平成 22 年度の予算を含めて温暖化ではなく氷河期に来ているのではないでしょうか。

次号は、土栄正人さん（建設部門）

山岸　　裕　農業部門（農村環境）

勤務先：合同会社登別ゲートウェイセンター

登別温泉に市民による地域ガイドを主業務とする「登別ゲートウェイセンター」を立ち上げるため、突如、観光業 1 年生となって間もなく 2 年です。観光立国推進基本法の制定、観光庁の発足など、観光立国実現への取り組みが加速しますが、「技術士」と「観光業」とは無縁のようでもあります。しかし、技術士試験における選択科目の内容を見ますと、農村環境には「地域資源の多面的利用」が記されており、他方「観光立国推進基本計画」には地域資源活用への支援が示されています。以前から地域の皆さんとワークショップ等の機会を通じて地域資源の洗い出しから保全、育成、活用の議論をした経験が生きています。中国の古典「易経」が、地域の良いもの（光）を広く人々に「観」せる（知らせる）ことは為政者の重要な仕事であると説いていることが「観光」の語源であると言われます。同じプログラムでも、表現ひとつで絶賛されることもあれば無視されることも。今はようやく、高品質の牛乳を低温殺菌で出荷する「のぼりべつ牛乳」を使った「生キャラメルづくり」が人気になりつつあります。お泊まりのお客様に暗闇の国立公園を散策して湯の川にしつらえた天然足湯を楽しんでいただく「ナイトアドベンチャー」や、日中、温泉の湧き出るポイントを巡る「泉源ウォッチング」も定番となりました。登別温泉バスターミナルに受付カウンターを置かせていただいています。技術士も参加する観光の取り組みにおつきあいいただければ幸甚です。

次号は、永田充利さん（農業部門）